

令和4年度第2回 地域公共交通会議 会議録

日時:令和4年8月4日(木)14:00~15:30

場所:南伊勢町役場南勢庁舎3階会議室

出席者:16名(定数20名)

出席者のうち委任状による代理出席2名、委任状提出による欠席2名、欠席2名

- ・上村町長
- ・学識経験者(名古屋大学大学院環境学研究科 加藤教授〔副会長〕)
- ・住民代表(田畑委員〔会長〕、竹内委員 代理出席、畑委員、南委員、橋本委員)
- ・一般乗合旅客自動車運送事業者
(新任:三重交通(株)バス営業部 増田部長、大新東(株)南伊勢営業所古市所長)
- ・一般貸切(乗用)旅客自動車運送事業者(三重県タクシー協会伊勢志摩支部長:三交タクシー)
- ・一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転手が組織する団体
(伊勢志摩交通 松林労働組合長)
- ・中部運輸局三重運輸支局(首席運輸企画専門官)
- ・伊勢警察署(交通規制係長)
- ・三重県(地域連携部交通政策課長 代理出席)
- ・三重県伊勢建設事務所(副所長兼保全室長)
- ・南伊勢町(教育委員会事務局長 代理出席、観光商工課長)

事務局:南伊勢町 環境生活課課長 生活交通係 係長 長尾、片岡



〔事項〕

- 1、委嘱状交付
- 2、会長あいさつ
- 3、議題 1)承認 町営バス令和4年10月1日ダイヤ運賃改正(案)について
2)協議 デマンドバス土日祝運行(案)について
- 4、その他

1、委嘱状交付

三重交通(株)人事異動による委員交代 前任)服部乗合営業課長 → 新任)増田バス営業部長

2、会長あいさつ

(田畑会長)

皆様、お忙しい中お運びいただきまして誠にありがとうございます。連日の猛暑、また変わらず、感染者数も増加が続いておりますが、皆さま、本日もよろしく願いいたします。

では、新しい委員の増田部長さんから、一言いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(増田委員:三重交通)

三重交通、増田と申します。前任の営業課長服部が人事異動となり、今回から私が出席させていただきます。南伊勢町さんは、日頃より町内公共交通の充実など、いろいろ考えて、一生懸命取り組んでいらっしゃる自治体様の一つであると思っております。私も委員、或いは交通事業者として、一緒に考え、汗をかいて、よりよい公共交通ネットワークが出来るよう取り組んで参りたいと思っておりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。以上です。

(田畑会長)

ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

3、議題 1)承認町営バス令和4年10月1日ダイヤ運賃改正(案)について

(田畑会長)

さて、本年度2回目の会議です。限られた時間の中ですが、ご意見いただき、楽しく、ご審議いただきたいと思っております。本日の出席は、16名となっております。委任状も2名提出されており、会議が成立いたします。議題1は、町営バス令和4年10月1日ダイヤ運賃改正(案)についてです。

今回の案件はかねてからご説明し、準備をすすめている「コメリ・ぎゅーとら」バス停と、季節にあった「阿曾浦お墓前」バス停の新設です。それと、これに伴うダイヤ改正と運賃設定です。

こちらは承認事項となりますので、事務局の説明後、ご審議いただきたいと思っております。

それでは事務局からの説明をお願いします。

(事務局)

資料1をご覧ください。

「コメリ・ぎゅーとら」バス停の設置は、国道と駐車場の間の、型黒川に沿ったところです。

バスの乗り入れは、船越交差点からコメリさん駐車場の店舗前を通って、ぎゅーとらさんの横を通って、川沿いのバス停に停車します。バス停からは川沿いに走行して、また船越交差点に出ます。

乗り入れ路線は、町営バスの南島南勢連絡線、南勢地区線の南海線と宿浦線について、朝の9時から16時までの全便です。資料のとおり多くの本数となるので、以前に乗り間違え等のお話もございましたので、待合所の中には、標識を2つ設置し、南海・南島方面と宿浦方面を分けるように考えています。また、デマンドや病院バスも乗り入れますので、安全対策をし、ご利用いただくようにいたします。

7月5日に伊勢警察署、三重交通伊勢と志摩営業所さん、コメリさんぎゅーとらさんの店長さん、担当課で、駐車場の安全対策等の協議もさせていただきました。安全対策については、伊勢警察署様から何か所か指導と提案をいただいておりますので、その準備を進めています。

まず、ぎゅーとら様への誘導線がないとのことで、バス停からぎゅーとら様への横断帯を明示する白線、待合所の前には「バス停」との文字とバス停車枠白線、コメリさん駐車場への侵入について、一方通行を促

す、矢印2本の指示をいただきました。こちらの準備も合わせて進めたいと考えております。
また、資料1の最後には、前回会議で検証した大方竈線について、住民要望である、「阿曾浦お墓前」バス停の新設です。こちらも、伊勢警察、三重交通、地元区長、と協議しました。町道になるので町建設課に占用許可申請も行ってあります。
場所は、大方竈線の旧中学校から阿曾浦弁天の間の区間、阿曾浦の墓地前になります。
資料1-1は合意書です。2つのバス停と路線の新設、ダイヤ、運賃について合意書案に記載されています。
資料1-2については改正ダイヤ案です。2つのバス停新設により、町営バス全域にダイヤ改正が生じます。
また、資料1-3町営バス運賃は距離制となっていますので、新たなバス停について距離にて算出し、但し、既存の運賃と誤差が生じる場合には、整合性を尊重し、調整いたしました。
資料1-4、5についての時刻表と路線図は、9月広報と一緒に全戸配布予定で準備をすすめております。
以上です。

(田畑会長)

何か説明や資料で、お気づきになった点はございませんか。

(前葉委員:三重運輸支局)

コメリぎゅーとらバス停、阿曾浦お墓前バス停ともに、警察さん等事前協議が済んだという事でよろしいでしょうか。

(事務局)

はい。

(田畑会長)

大切なところをご確認いただきました。何か説明や資料で、お気づきになった点はございませんか。

(島田委員:観光商工課)

資料1、左図、コメリ・ぎゅーとらバス停の設置箇所について、この位置で良かったでしょうか？

(田畑会長)

この資料1ですね。事務局お願いします。

(事務局)

すいません。この図が、ずれています。

(加藤副会長:名古屋大学教授)

この資料では、ダメですので設計書とかを提出してください。

この資料を訂正するのであれば、この会議中に出していただくと良い。よろしくお願いします。

これはちょっと大事なことなので、関係の方は皆、現地を確認しておられるのはいいのですが、運輸局さんが見ていないので、そうであればここで協議して、整わないです。

(事務局)

すいませんでした。もう少し、コメリさんの向かいあたりになります。
合意書の中にも地図があるのですが、少し薄いですね。すいませんでした。

(加藤副会長:名古屋大学教授)

これでわかりました。でも、地図が薄いので濃く表記してください。これで、大丈夫です。

(田畑会長)

はい、これでわかりますが、ここの地理、皆さんあまり把握はされていませんよね。私もこう見ると、わかっていなかったなと思いました。お買い物には皆さん、毎日行かれますか？もう少し、わかりやすい位置図で明確に示していただきかったですね。

はい、皆さん今の説明でご理解いただけましたか。位置としては少し右にずれます。

では、上村町長さん。

(上村委員:町長)

先ほどの資料1を見ていただいて、この中の一番広いところ、木が生えているところです。真ん中から、ちょっと右寄りのところになります。この辺りにバス停ができると書いたと思うのですが、はっきりとまだ断定できないということがあって、このような表記になったのかと思います。

設置場所的には、一番広いところになると思います。以上です。

(田畑会長)

ありがとうございました。当会議は、副会長さんも町長さんも共通しているのは、現場主義ですよ。

ご自分で見て、だからこういうふうにフォローしていただける、ありがたいですね。

それで皆さんご理解いただけましたね。どうもありがとうございました。

では、この件につきましてはご承認いただけますか。

(全委員)ハイ

ありがとうございます。

(加藤副会長:名古屋大学教授)

この資料、差し替えしておいてくださいね。

それから今、ずっとその駐車場で現場を見ていたのですが、やはり車の出入りは、非常に多いところで、それと現状だと、真ん中が島になっていて、そこに駐車場があります。ここでも書いてありますが、あまり車が停まっていない場合は、車が横切ったりしていました。

そこは警察さんと協議しているのでいいと思いますが、やはり矢印などで一方通行を示さないと、歩行者が横断するとか、車の停める時、出す時に接触するとかの可能性あります。

そこは注意してほしいですね。

(田畑会長)

安心安全面でも、貴重なご意見でした。ありがとうございます。

(加藤副会長:名古屋大学教授)

それと、「阿曾浦お墓前」って言うのは、地元の皆さんがいい、ってことでいいのですね？
とても、不思議な感じなので。

(上村委員:町長)

はい、率直な気持ちだと思います。私も初めてこれを見た時に、「この名前がいいの？」と言いましたが、地域がどうしてももうこれでいきたいと、いうことがありましたので、多分事務局の方もそういう形になったと思います。生の声を聞いてですね、それならそれでいいのではないかということになりました。冒頭、会長から、お盆の時期でと言われましたが、そうではなくて、地域にはそういう名前でおとってある場所でございますので、それでいいのかなとご理解いただきたいと思います。

(加藤副会長:名古屋大学教授)

全く、それでいいです。一応、他で聞かれそうなので聞いてみました。
やはり地域で通っている名前であればいいと思いますので。

(田畑会長)

素晴らしいね、この町は住民本位だね。ありがとうございました。
それでは2番目です。
デマンドバス土日祝運行(案)についてですね。ちょっとこれまでと違うテーマでございます。
事務局からよろしく願いいたします。

(事務局)

資料2をご覧ください。まず、デマンドバスの現状についてご説明いたします。
平成24年10月の運行開始より365日4台ということで運行し続けています。
平成29年ですね、1日の利用者数が75人以上となっておりますが、それ以降の人口減少もあり、またコロナ禍により利用者数が減少しております。またそのコロナ禍については、利用者数が回復できていないのが現状です。
平成30年から、予約がとれない、できない方の対策のために、平日の繁忙期に5台運行、その代わり日曜日に3台に減らした運行を行っています。当初、順調に利用者数を伸ばしていましたが、それ以降での利用者減少もあり、待機車両に少し余裕が出ている状況が続いています。
また、「予約できない」との反面、乗車待ちや、運転手の休憩など理由はあるのですが、「デマンドバスが停まっている」など、苦情に近い声が聞こえています。
今年の9月末でデマンドバスも10年となります。今後の運行について検討している中で、配車に余裕があるのであれば、待機車両を減らせないかと、相談しました。
これは利用についての令和4年4月から6月の生のデータです。裏面は、年末年始をご確認いただけます。
土日の利用者については、平日より利用が少なくなっています。特に日曜日については、ご覧のとおりかなり少ないのがわかります。

そこで、土曜日を3台運行、日祝日は2台運行で現在の利用者を輸送できるのではないかと考えており、また、皆様のご利用に支障がでない範囲での経費削減を目指しておりますので、今後の予定運行回数に変更ないものとし、フィーダー計画の運行見込回数についても変更なしとします。

利用者数を見ると、日曜日の2台運行は可能かと明確にわかるのですが、土曜日については少し利用が多いところもあります。その土曜日については、南島の阿曾浦、奈屋浦、神前浦などからの長距離移動でのぎゅーとらさんへのお買い物を2、3名がされており、この場合、利用者数についても、車両乗り換えを行うため、実利用者数よりカウントが増えています。

また、予約状況を見て台数を増やせるように、但し書きを追記させていただきます。

これは10月1日からの変更提案となります。以上、事務局からの提案となります。

(田畑会長)

ありがとうございます。皆さん、ご意見いただけますか。

(古市委員:大新東)

一応、数字を見てお話しして、減らすとしています。

ただ、この減らすというお話は、利用者数だけでみているところがあるので、かつ日曜日は現状で3台運行していて、車両の運用だけみると若干の余力があるだけかと思えます。

ただ、移動距離を考えると祝日も同様に、20名を超えると難しいのですが、20名ぐらいであれば大丈夫だと思っています。

それで、土曜日はこの協議の中でも出ていて平日と大差がないように見えるのですが、少しご利用の目的が違って、午前中診療のお医者さんにプラスして、遠方からのお買い物移動などがあります。平日のように60人を越えないのですが、55、6人となる時もあり、そうすると、3台は少しきつめの設定で、3.5台とかにできないのかなと、思うのですが、3台でもできない範囲ではないと考えております。

現在、デマンドバスでバスへの乗り継ぎがあまりできておらず、点から点でのご利用となっています。

そうであれば、台数を減して、そのバスなどへの接続を考え、将来を見据えて試してみることに対しては、期待はしており、ただ、日曜の2台、土曜の3台は、ちょっときつめの運行ではありますが、選べないものではないと考えております。

イベントや、コロナ明けで今後どうなるかとは思いますが、但し書きの繁忙期は増車できることにより、対応は可能かと思えます。

(田畑会長)

はい、ありがとうございます。実績を踏まえて、こういう改革案を事務局が提案しました。

そして、利用者に不便がない範囲で費用を削減したいと言う事務局さんからのお話でしたので、大新東さんとの協議があったというふうに書いてあるものですから、事業者さんから聞かせていただきました。

長いお話しで、私、要点がわかりにくかったのですが、これ、ここで記載してある通りで、事業者として納得いただいたということですか。

(古市委員:大新東)

数の部分で考えた時の稼働台数としては対応できるものだと思います。

(田畑会長)

利用者数だけを考えると対応できるということですか。

(古市委員:大新東)

ただし、予約の取れ具合などが、所謂デマンドバスの利便性の部分が、3台や2台になったりすることで低下するのは間違いないので、その部分に関して言うと、もしかすると、利用に不具合が出る可能性はないとはいえないです。

(田畑会長)

事業者としては、ちょっとそういうところが心配だということですね。

皆さんはどうでしょうかね。

(畑委員:住民代表)

私は相賀浦の者ですけど、相賀浦の場合バス停がすごく民家から離れている地区が多いので、デマンドバスをすごく皆さん喜んで利用させていただいています。なので、減らすとかそんなことなしに今の状態で、経済的にできるものなら続けていただきたいと思います。それで相賀浦も高齢者がすごく多く、脚や腰の悪い方も多いので、バス停が遠いとお天気の良い日はいいのですが、でも、海岸沿いにずっと行くので、雨だとすごくしけます。

でも乳母車を引いていかれる人とか、そういう人が増えてきたのでやはり、デマンドバスだと家の近くで乗降できますので、すごく助かっていて、みんな喜んでいます。

デマンドバスは、このまま減らさずに今のままでやっていただきたいと私は思っています。以上です。

(田畑会長)

はい、ありがとうございます。利用者サイドからね、切実な声ですね。では、事務局。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。デマンドバスの今の台数は減りません。特に平日は減りません。

この提案は、平日4台稼働させていただき、土日祝に余剰台数を減らすという事です。

この4月から6月の利用を見ていただいて4月の例えば3日日曜日ですが、3台運行していて1日16人運ばせていただいています。この場合、お断りもせずに、朝8時半から17時までの運行の中で、1台5名運ばせていただいております。こういった日が、日曜日にかけては多くなっています。

平日については、4台運行で全然変わりませんので、今、配車で余っている中で、待機車両を減らせないかと言う相談を大新東さんにかけていただきました。相賀浦でもカタガリとか、ゴロヤさんとか、あのあたりまで入っていただいて、たくさんご利用いただいていることを、こちらでも重々承知しておりますので、平日減らそうとは考えておりません。

今後もたくさんご利用いただきたいなというところです。

ただもう一つ、先ほど承認いただきました、ぎゅーとらさんへのお買い物バスができますので、荷物をたくさん持って、相賀浦の漁協前まで乗っていただくと、これ、今まで例えば8名しか乗れなかったところ

10名で、20名でもバスですと一緒に帰っていただけるなあと思っております。そして、これから大新東さんに、そのバス停から自宅近くへの細かな輸送をお願いしたいところです。そちらもぜひご利用いただきたいと考えております。以上ですが、よろしいでしょうか。

(田畑会長)

良いご意見でした。やはり利用者のサイドから、不便なことが困るということで。

(畑委員:住民代表)

高齢者が多いので、皆さん脚や腰が悪いということですので。

(田畑会長)

デマンドバスはそういった住民の皆さん、利便性を確保するためにあります。

どうぞこれからもご心配な事など、どんどん発言してくださいね。

今はその心配がご無用でしたので、わかっていたいてありがとうございます。

(畑委員:住民代表)

ありがとうございます。

(田畑会長)

はい、次はタクシー協会 小崎委員、お願いします。

(小崎委員:タクシー協会)

この資料を見させていただいて、「予約できない」と出ているのですが、これがどういうことか、今までの資料で示されていないので、どのような状況なのかがわかりません。

どういう状況で予約ができないのか、デマンドバスで予約が取れないとは考えられないので教えていただきたいです。デマンドバスは、予約があってから運行するものであって、それを断ると言うこと自体はわかりません。

私も伊勢市でデマンドバスを運行していますが、予約があれば増車すれば良いということなので、理解できないのです。南伊勢町では、そういう協議はされていないのですか。

(田畑会長)

それではまず始めに、事務局さんから説明をお願いします。

(事務局)

南伊勢町の場合、宿田曾から棚橋竈まで国道の総延長 50 数キロの中を 4 台で運行しております。

「予約ができない」というのが人気の高さでもあったのですが、1 台、8～10 人ぐらいまでしか乗れませんので、同じ時間帯に、長距離を運行してしまうと、他の方が予約できないということになります。

それ以外にも、「予約ができない」理由はたくさんありまして、1週間前から予約を受け付けておりますので、上手に予約をされている方も多いのですが、「今日急に利用したい」と電話をかけても、配車済みとい

うことは可能性としてかなり考えられますので、広大な土地を4台での運行というのが、地域特性に合わないのかなと思います。増車に関しましても、1台増車すると費用面とかいろんな協議も必要になりますので、まずは、広大な南伊勢町で、1日4台で運行しているのが、一番の課題ではないかと考えております。それとですね予約体制ですね。先ほどお話しさせていただいた「今すぐに乗せて」というものに対しては、「ちょっと待たないと乗れません」と、丁寧な対応をしていただいておりますが、「じゃあ、もういいわ」というお断りもありますし、電話をかけたけれども、電話が繋がらなかったよって、「予約ができない」とか混雑しているっていうイメージも、ございますので、一応、いろんな理由は考えられると把握しております。すいません。以上です。

(田畑会長)

はい、では事業者の古市委員をお願いします。

(古市委員:大新東)

そうですねこの「予約できない」という表現が、ポイントかなと思います。

「予約が取れない」ことが「予約できない」とことであれば、予約できないことはないです。

前々から言われている電話が繋がらないのが、もしかしたら「予約できない」のかもしれないし、電話が繋がってもさっき言われた希望の時間に車がなかったら、それは取ることができないので、だいたいご利用いただける時間を提案しまして、デマンドの運行を案内するのですが、それでもお断りされる時も「予約ができない」なので、でも「予約できない」というのは取れてないというふうに僕は判断しています。

だから表現と言いますか、この辺の部分は、ずっと言われていますが、できないとは、少し違うと考えています。

(田畑会長)

小崎委員さん、デマンドだから予約できないのはおかしいでしょうと言う意見を発言されたのですが、役場事務局、事業者ともによく似た見解だと思いました。

地形的な制約とか、運行効率の悪さとか諸々の事情はあるのですが、「予約できない」と一言で言うといういろいろ感じますが、実際にはこういった状態であるとのことでした。

この件について、どなたかご意見ございますか。

(小崎委員:タクシー協会)

先ほど私がお話す前に畑委員さんの方から、お友達の話しが出ましたが、それが現場の意見です。

デマンドで予約したいのに、予約できないという事が、不親切極まりないと感じます。

折角、使おうと思っているのに、それが予約できないのは、普通のタクシーでは問題ないです。

市町からお願いされている仕事で、予約ができないっていうことは、こういう仕事を受ける上で、どうなのかなってちょっと疑問に思っただけです。

偉そうかと思われるかもしれませんが、私も伊勢市でデマンド運行しております。全く一緒に、予約なんて一度も断ったことがありませんし、車がないっていうことで、返したことはないです。市の仕事は必ず受けるようにしています。それぐらいして欲しいというのが本音です。私はそれで受けたのですが。

(田畑会長)

よくわかりました。

例えばよく経済の中で、デマンド & サプライ、需要と供給というのが、コミュニケーションをしっかりとるのは当然のことながら、予約が取れないのは、違うのではないのかという素朴な疑問だと思います。こういうことは当たり前のように、仕方ないよっていうのではなくて、いろんな理由を考え、これからそういう問題がなるべく発生しない改善努力をしようというところですね。

それがテーマですね。これからちょっと追求していきましょうね。ありがとうございます。

(加藤副会長)

少し長くなります。今のことをきちんと議論してく中で、非常に問題だと思ったので今この話を言います。まず、所謂デマンド運行で、きっちり全員運べている事例は全国的にみてもあまりないです。

特に北関東は非常にデマンドが多いのですが、あちらの方の地域公共交通計画ですと、予約成約率何%以上が目標としていたりします。つまり断る前提なのです。「運び切れない」前提で、しかし、当然今のお話で、「運びきれない」のが前提とか本来はおかしいでしょう。おかしいけど、予算的なことなどでそれだけしかできないので 90%、例えば「10 回に 1 回ぐらいしか断らないようにする」そういう目標を立てているところもあるぐらいです。

これはデマンドの宿命に近いというか、どうしても限られた台数で、これはタクシーでも同じ話だと思うのですが、限られた台数しかないときに、一時的に非常に多くの、注文があったとしたら、行けない事はタクシーでもデマンドでもあることです。

因みにタクシーもデマンドも全く同じ 4 条なので、運送を引き受ける義務があります。

4 条だと運送引き受け義務があるので、必ずタクシーだって当然本来断ってはいけないのです。

ただ、実際には断らない、断ってはいけないので断ってないはずなのですが、配車できないので、「3 時間ぐらいかかりますが」とか、そういう風に言うと、「そんな 3 時間待ってられるか」ってなる場合が、「成約しない」との事になります。

そういう話がまずあって、でもなるべく運びきれないといけないので、どういうふうにしたら運べるかを考えるというのが、ここのテーマです。というふうに思ったらいいというのが根本的な話です。

そしてその時に、どういうことが必要かという、例えば今、休日ですと 3 台で運行しているけど、2 台でもできるのではないか、というのは、通常だったら、3 台今の時にどういう予約が入っていて、それを 2 台に割り当てることができるかどうかというのをチェックすれば良いと、単純にそういうことです。

だから、6 ヶ月ぐらいの土日、日祝の、実際の予約状況を出していただいて、それを 2 台で、割り当てできるかという事で、全部予約が入れば良いし、例えば 30 分位余分に待ってもらうことでほぼカバーできるのであればそれでいいとか、検証した上でこうやって提案していただいたら、何ら問題なく、畑委員のお話でも、「実際 3 台で今運行していますが、2 台でも、全員きちんと割り当てられるので大丈夫です」と、言えればいいのかと思います。

そしてもう一つ、南伊勢町でも午前、午後、利用はやはり午前が多いですかね。(事務局:はい)

そうですね。他のとこでしたら午前 3 台、午後 2 台としているところが多いです。

この資料は 1 日で何人となっていますが、午前は多く午後が少ないから、午前は多分予約が入り難く、午後は入りやすいのだろうということです。なので、午前にきちんと予約が入るかどうかを確認しなければいけないです。そこを議論しないで 1 日単位で検討していること自体が、「うん」とは言えないところです。

ただ、明らかに平均より少ないところについては、実際シミュレーションしても回り切れると思います。この場合は、今言ったようにきちんと割り当てられるかということから考えないと、平均で何人というので議論しているのでは、科学的な判断ではないと思います。

繰り返しますが、デマンド交通の場合、さっき会長がおっしゃった言い方で、デマンドは供給側で、サプライは需要ですね。デマンドを出して、一方で空車を少なくするとか、迂回を少なくするということです。需要側からいうと、自分が希望した待ち時間よりも、前後するのをなるべく少なくしてくれるということと、それが実際に成約するかどうかで、つまり「断る」、実際に注文したくても成約しなかったという場合の割合を減らすことです。

それが大体どなるか、3台から2台に減らしたらどうなりそうかを示していただければ議論できますが、それが全く出てこなくて、多分いけるだろうと言う話しだけなので、非常に難しいというのが私の思いです。

繰り返しますが、ただ明らかに、日曜日がこれで回るっておっしゃるのでしたらそれで構わないです。きちんと確認した上で事業者さんとの間で、そういうふうになっているという資料として出していただければいいです。この資料見てもそこが全く読み取れないし、意味がわからないので、今の議論になってしまうということだと思います。

いずれにしても、さらに根本的に南伊勢町の場合は非常に広いエリアで、長い距離を走らないといけないのですが、もしそうであれば他のところでは、例えば菰野町では途中まではバスで、皆で来ていただき、その途中からはバラバラに移動したいので、「そこからはデマンドです」というふうにしていこう、と言っています。みんな注文したら、何台も増えていってしまっ、一方ではバスに乗らなくなって、バスがなくなることになります。実際にはタクシー同然でたくさんのお金が必要になってしまう。というふうにならないようにどうしたらいいか考える必要があるので、この会議で、どういう運行の仕方をして、どのようにバスとデマンドを分担すれば良いのかということ議論しなければいけないのです。

ということがあって、そこに進んでいただきたいというのは次の課題としてあります。

その場合でも、注文がどういう風に入っていて、それを途中まではデマンドで運び、途中からはバスに乗り換えていただいて、割り当てられるかどうかのシミュレーションをして初めてわかります。

シミュレーションって言うと、なんか難しそうって思うのですが、日頃からやっていることです。

日頃から予約を入れていくということではなくて、それをやるのが主な仕事、回してみるっていうだけなので、それをやればいいだけじゃないのかなと思えるのですが、これは古市委員どうですか。

そこができそうですか？つまり今の予約システムで、例えば途中バスに乗りかえるというふうに予約が入ったときに、今だと4台でもお断りが出てくるのですが、途中で乗り換えてバスに乗ってもらえば、他の入りきれなかった予約が入ってくるとか、そういうふうなシミュレーションをしてもらえれば、そういった住民の皆さんもご納得いただけると思うのですね。

つまり、予約できた人は直通で行けてすごく得だけど、直前に頼んだ人は、「予約ができない」と動けなくなるというのが、みんな途中で乗り換えるので少し面倒くさくなるけれど、その代わり、他の人も多くの人に乗れるようになるから、その方がいいじゃないですかと言うふうになる。

しかも、その場合バスは増車にならないので、経費は増えず、だけど、デマンドは、もともと4台が4台で回るのであれば勿論ガソリン代は高くなりますが、全体の経費からすると僅かなので、非常に全体的に効率的になって、お客さんもたくさん乗るようになって嬉しいなと思います。

ただ「乗り換えていただくこと」を我慢していただく必要があって、乗り換え方法を、なるべく歩く距離を

少なくするとか、ノンステップバスにするとか、いろんなことをやってみようという風に最後はなります。シミュレーションをきちんとやるのが大事ですが、いかがですか。

(古市委員:大新東)

そうですねシミュレーション自体は、今やっていることを、何か整理するというか、精査するだけなので、多分できると思います。午前中だけとか、土曜日日曜日の加減というのは、見ることはできると思いますし、それを、例えば3台を2台にしたときに、どういう風に組み合わせるのかという部分は多分できると思います。ありがとうございます。

(加藤副会長)

わかりました。今はもうこれ、多分、予算的なこともあってこうされるのだと思います。

これは余計ですけど、今のこういう話をコンサルさんとかに、計算してもらおうと、結構取る計算になりますが、これをうちの学生に演習問題でやらしてみようかと思えます。多分論文にもかけます。と、これはちょっと余計ですけど、論文にも書けるなあ。こう言うのって非常に効率的、学科に道具で出せるような問題です。古市さん、町長さん、会長さんもよろしくお願ひします。

学問的な部分で解決できる場所だと思えます。少しそれをやって、最終的にはさっきの乗り継ぎも、乗り継ぐことによって今まで断っていた人が断らなくて済むから、非常に便利になった嬉しいし、長距離はごめんなさいねと。

果たしてそれを示したときに、いやもうちょっとこうして欲しいとか、どういうふうに運行するかを決めていくことを、これからやっていく必要があるかということをおもいました。すいません。

(田畑会長)

長い時間を取って成果がありました。いや本当にね、科学的にね、実にわかりやすい。

やっぱり先生は素晴らしく、私も入学したいと思ってしまう。感謝申し上げます。

またこういう機会があったらどんな質問でもいいですからね、質問してください。

(竹内委員:代理出席)

竹内さんの代理の西川です。よくわかるお話しでした。

予約できないこともわかりましたし、例えば、乗り換えすることによってもたくさんの方が使えるのであれば、それでいいよと言ってくれる人はいらっしゃるのじゃないかと思えます。

少しぎゅーとらさんのお話しに戻ってもいいですか？

私も南島側ですが、皆さんとても喜ばれると思えます。ただ、運行後に皆さんの意見を聞いてあげていただきたいです。この時間で良いのかなど、ヒアリングや調査いただけるといいと思いました。

あと、結構混雑している時間もあるので、やはり安全に気をつけていただきたいです。

まだ自家用車を利用されている方は、バスが運行することを知らないの、周知を徹底していただいて、皆さんに安全にご利用いただきたいです。

(田畑会長)

今の意見はとても大切です。事務局その辺り、よろしくお願ひします。

(事務局)

すいません。早めにお知らせしたいと思ひまして、9月広報でのバス停設置案内と、新しい時刻表と路線図を同封し、全戸配布できるように、準備をしております。

町内以外にも、三重交通営業所などにも設置させていただきますので、皆さまのお近くの方にも宣伝いただけると幸いです。

(田畑会長)

今回は今までより対応が早いですね。

ここではいいことを発言していただく。いいことって具体的に「何だっけ」と考え、それは住民のためであることですね。この仕事の崇高なところは、交通弱者にとても温かい配慮もしてあげる。それが、一人ひとり活力となり、町の勢いや力を呼び起こすことになり、その為にここで議論していくことだと思います。

こういう会議いいですよ。住民代表さんの意見を活かして、行政だけではなく、情報共有して、皆で力を合わせてね。では、橋本委員いかがですか。次は南委員ですので、ご準備くださいね。

(橋本委員:住民代表)

デマンドバスを普段利用しないのですが、デマンドバスについて普段思っていることをお話しします。

やはり休憩されているので、結構目に付くのかな、とは思ひます。資料にもあるように、私は苦情までは言ったことはないですが、苦情が来るっていうのも、わからないでもないと思ひます。

なので、その停まっているイコールさぼっているみたいに見られないように、何か工夫されたことはありますか？

配車のこともあり、停まっているのを私も見ますが、当然、私はそういう理解で、「休憩中なのかなあ」と思ひますが、この資料だとやはり苦情が出ているという事で、例えば「ただ今、休憩中」とわかるようにしておけば、わかるのになあ、と思ひたことは何度かあります。そんないろんな対策をお考えになったことはないのかなあと思ひました。

(田畑会長)

ありがとうございます。非常に貴重な、とてもリアルなお話しでした。

貴重なね、あとも清々しいですよ。古市委員いかがですか。

(古市委員:大新東)

稼働率が落ちてきたということで、待機時間と休憩時間では少し違うのですが、住民さんから見たら休憩に見えるのかなと思ひました。お昼の休憩については「休憩中」というのを大きく貼ってあってもいいかなと思ひますが、所謂予約待ち待ちは待機状態になるのでそこはどうかと思ひます。

場所については、日陰のところで目立たないところにいますので、さぼっているように見えてしまうのかなと思ひます。なので、長時間待てるように大体の待機場所を決めましょうということで、決めてあります。

例えば南勢地区であれば、町立病院や町民文化会館、南島の場合は南島メディカルセンターやふれあいセンターなんとうなどで、これはお昼の規定時間に待機する場所、かつ運行予約があった時に、一番動きやすい場所ということで、従来運用してきました。例えばメディカルだと休憩中ですが、「乗せてくれへんか

な」とお声がかかるので休憩にならない時がありました。それで、メディカルセンターより少し離れ、奥のところ、また移動して上の体育館の日陰のところっていう話になっているのかなと思います。

橋本委員のご意見のように、やはりその表示とかが必要になってきているので、早急に対応して、「今何している」「乗車可能です」というのを、皆さんにわかるように、試したいなと思いました。

(田畑会長)

素晴らしいご意見でしたね、ありがとうございますね。では、南委員さん、よろしくお願いします。

(南委員:住民代表)

私もデマンドは利用したことはないのですが、古和浦は年寄りがおって、予約できないというより、指定した時間に来てもらえないというか、拒否されるかちょっとよくわかりませんが、そう言うのは私も聞いたことがあります。それがどうしてできないのか、直前だったら予約が取れにくいとか、町民の方がわかっているのかがわかりませんが、そういう事も町民の方にも、この時間だと利用数が多いとか、わかるようにお知らせしたらいいのではないのかと思います。

それと、加藤先生のお話しがわかり易くて、すごいいい提案だなと思いました。以上です。

(田畑会長)

ありがとうございます。やはり住民目線からという意見は大事ですね。

ぜひ、改善してあげてくださいね。また行政もそういう点は、常に対応してください。

申し訳ありません、また時間が押しましたが、今回はとても良い議論となりました。事務局も、徐々に具現化していくように頑張ってくださいね。

このテーマは今回の承認をしないで、次回にまわしたいと思います。

事務局の方も、資料を修正しましょう。素晴らしいですね、資料を再提出してください。

(事務局)

先生のお話しのとおり、委員さんからのご意見等をおまとめして、資料を再度作成いたします。運行についての承認については、早急に検討し、皆さまにお示しできるように準備いたします。

(加藤副会長)

結局、土曜が3台日祝日が2台になることによって、本当に予約が取れなくなるとかそういうことがないのであれば別に、利用者とかは関係のない話しです。ここでバスだと、減便すると今まで1時間に1本あったとかになるので、明確にわかるのですが、これは実際どれだけの台数で回せるかというのが、もし、事務局の方で、或いは事業者の方で、十分回せるってことでしたら、この会では協議事項だと思います。

何か行事があってこの日は利用者が多いであるとかであれば、すぐ乗車できる体制がとれるかどうか問題だと思います。むしろ、台数がないので、それこそ、2台と決まっているからやらない、みたいなことだと駄目なので、やはりそのあたりの、どういう体制で臨むか、その台数の増減についてはどういう体制で考えているのかということについて、もうちょっと明確に進めていく必要があるというのが私の考えです。結局、今ここでそれを3と2台にするってということについて「どうですか」と言われると、ちゃんと予約が回っていくの?ということをお教えしてくれないと、我々委員としては、協議できないよということをおっしゃっている

だけです。

気になるのは、10月からもうそういう契約をされたいということですね。

事業者さんが納得しておられるのだったらそれでも構わないと思いますが、ただ、さっきの話だと回りきらないときがあるのではないかってことですよね。但し書きというのは、どのぐらい有効なのかで、ただ人がいなければ、それもできないということですね。

(古市委員:大新東)

この数字だけだと測りきれないところはありますが、但し書きによってどれくらい運行できるのかなと思います。ただ、決められてしまうと、その台数でいいでしょうっていうふうには思っておりません。

日曜日はイベントなどもありますし、今コロナ禍ですが、実際のところ、長期的に見た時には観光客とか、土曜日日曜日では取り込んでいかないと、それこそ人数が増えないということもありますから、いわゆる2台3台運行というのは、数的に今の乗降人数だけでいうと、減らされても仕方ないのかなというところでは。

(加藤副会長)

減らされても仕方がないと仰るのでしたら、やってもいいと思いますが、今後どうなっていくのかはまた別の問題です。個別の問題もありますのでね。

本当はそれを出すのでしたら、ちょっと、そういうデータとして見てみたかったなというところでは。

要するにここで議論する一番大事なことは、利用者にきちんとサービスが提供されるかどうかが大前提なので、そこについては「下げないよ」と、町長もおられて責任持って言っていた。

その中で、何台で回すかと、テクニカルな事務的な具体的な問題になるので、これは町と事業者できちんと協議して、やっていただいたら良いと思います。

それから、運輸局に対しては、特にそれでこうなったので、こんなこうしたいのをお願いするっていう、申請するわけではないですね。

(前葉委員:三重運輸支局)

じゃないです。

(加藤副会長)

だったらこの会議で承認する必要はありません。あと、補助金ですが、フィーダー計画は、下げずに行くんですね？

(事務局)

はい、変更はありません。

(加藤副会長)

そうですね。

なんか今、物言いがついて、私としても、町としても、今までのように、予約が今まで程度か、それ以上入るような形、或いは、必要以上にお客様を待たせないということは、きちんとやるという前提の中で、それが

何台で運行可能かということについては、きちんとしていただくという限りでは何台で回れるかというのは、町と事業者で考えていただく。台数を減らすことについての申請があるのですが、今そこが不明瞭なところですよ。であるとしたら、そこはもう一任ということでもいいと思います。

我々にとって大事なのは、きちんとして予約が入って動けるかどうか、そこをきちんとして現状以上に確約していただくということを条件にしています。

そういう議論をここで、やるべきだと思います。台数を何台にするかは一任するという事です。サービスを落とさない前提で、一任するということでもいいと思います。

(上村委員:町長)

それは、当然のことです。

(加藤副会長)

当然なのですが、畑委員がおっしゃったように、そのことによって不便になるのではないかと、当然、僕もそうだし、懸念されるので、そうはならないように台数を調整させていただくことがあるとするとのことですね。そこを、ここで認めるということですよ。

(田畑会長)

ありがとうございます。なかなかこういう場面は目にすることは無いですね。

加藤先生は、国家の方針を決める委員会に所属して、委員会を動かす実力者ですね。そのお隣は、陸運局のこの規制、法律の中で、どこまで運用できるかどうなのかということの中で、両者が話し合ってくれましたね。ここで決まるということは、皆さん歴史的な場面に立ち会えました。こういう、柔軟性のある日本って素晴らしいです。これでちょっと日本の将来の期待が持てるような気がしました。

ありがとうございます。これからもお二人の活躍を期待しています。それと、皆さんが熱心だから、この両名、また行政を動かしてもらえたという、成果の証です。これからもこの町からいろんな情報発信、また互助のご尽力を賜りたいと思っております。

最後にね、お忙しい中をね、大変な時なのに、委員ということもありますが、最後まで一緒になって考えてくれる町長さんに挨拶をいただいて、この会議自体を閉じたいと思います。よろしく願いいたします。

(上村委員:町長)

はい。本当にありがとうございます。

いろんな意見を聞かせていただいて、この生の声というのが一番大事ですので、我々も今後進めていきたいなというふうに考えております。いろんな議論をいただきましたけれども、やはり根本は、ここに住む町民が、どうやったら一番いいのかということを考えてながら、これは進めていきたい。

デマンドバスも24年から運行を開始して、年々、やはり高齢者も増えていく、人口も減っていく、どうやって運行していけば一番メリットがあるか、そういう考えながら、今進めていただいているところです。

いろんな形で意見があると思いますが、それはそれでまた皆さんと相談しながら、進めていけばいいのかなというふうに思っております。

今、私も考えておりますのは、やはり高齢者が多くて、会長もおっしゃられましたけども、買い物弱者とか、やはりこの病院へ行くのをどうしたらいいのか、これからの学生のこととかも考えておりますが、畑委員

さん言われたように、もっと近くまで、迎えに行けるようなシステムを作っていく必要があるのかなというふうに考えております。

南伊勢町は2町が合併して、非常に長くあって、より厳しい面もありますが、厳しい厳しいっていうだけでは何もできません。本当にさっきも言いましたけれども、根本は町民の皆様はどうやって幸せ感を味わってもらうかというのはやっぱり交通の、足を、これが一番私は大事だと思います。

今日の会議出席させていただいて、こんな生の声を聞いて、今後それを町へ反映してく、こんな仕事ができるということが、ものすごく楽しみなのです。

だから自分自身は会長よく言われている、「現場主義」って言っていただくのですが、もっともっと町へ出てですね、この生の声を聞きながら、一つ一つ改善していきたいなというふうに考えております。

デマンドさん、あと三重交通さん、あとタクシーがこの町にはありますが、それをどうやってコラボさせて、住民さんがどこへでも行けるようなシステムを作っていきたいなと考えておりますので、加藤先生はじめ会長もそうなのですが、皆さんのお力を借りて、これを改善していきたいなというふうに、思います。

先ほどもうありましたように、運び切れない人をどうするかってことが一番大事ですので、我々は学生さん、お子さん、高齢者、いろんな方が満足していただけるようなことを考えていかなければいけませんので、それをしっかりと皆さんと相談しながら、今後進めたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。本当に今日は有意義な会議していただいたことありがとうございます。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、一番最初に挨拶しないといけませんでしたね、当町、非常に皆さんにご心配をおかけして、いろんな嫌なことを言われるかもしれませんが、それはそれで起きてしまったことは申し訳ないのですが、前にしっかりと我々も頑張っけて参りますので、またお力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

(田畑会長)

ありがとうございます。いつも急にふって、申し訳ありませんでしたね。

一生懸命、町長さんが頑張ってくれていると思いますので、みんなで応援したいなと思っております。

それで、町民がね、最も求めているのは、「言葉の宝箱」じゃないのです。「心の宝箱」が欲しいですね。

私は今日のお二方は、またちよろちよろと事務局がしていましたけどね、この連携と言うのは、本当に心あつてのことだなど、感動しましたね。ということで、また次回の会議でよろしくお願いいたします。

今日はこれで閉会させていただきます。ありがとうございました。

お疲れさまでした。 (閉 会)